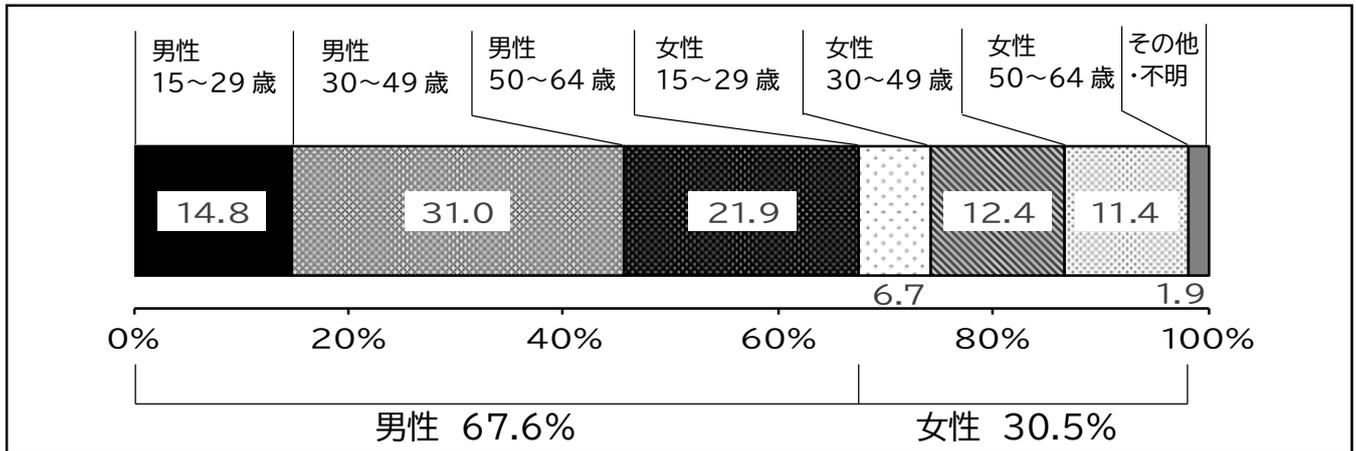


IV 「SOS を発信できないリスクが高い人」の分析

本章では、問 26「あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれるのは誰ですか」と問 27「家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか」の 2 つの設問において、どちらも「そのような人はいない」と回答した人を「SOSを発信できないリスクが高い人」とし、分析を行った。

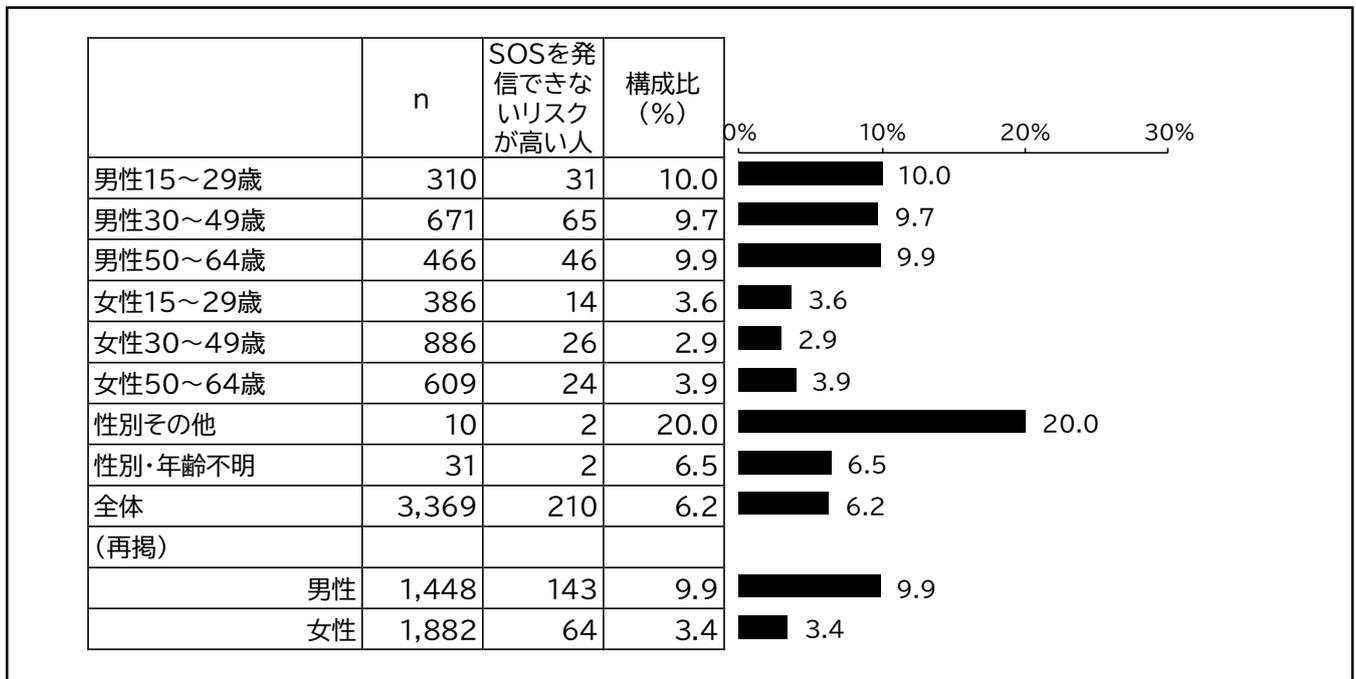
1. 「SOSを発信できないリスクが高い人」のプロフィール

◆「SOSを発信できないリスクが高い人」は全体の6.2%、その3分の2は男性



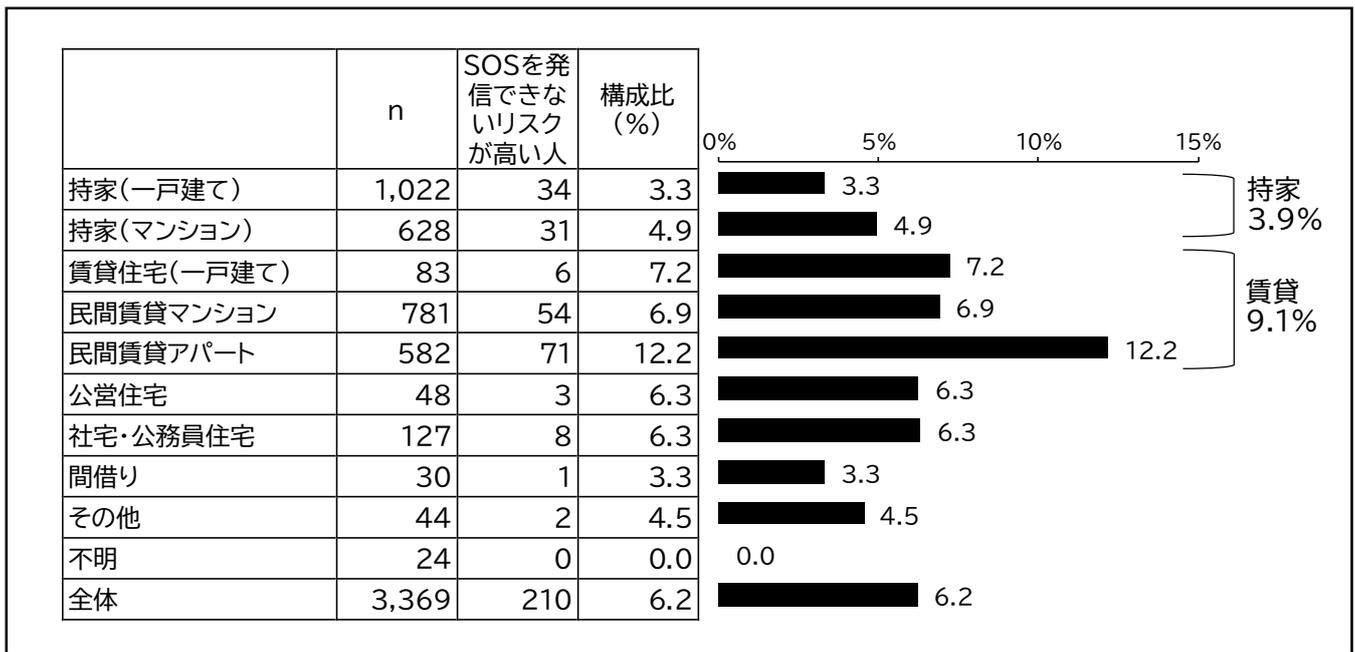
心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない、かつ、相談相手はいないと回答した人は 210 人(6.2%)である。そのうち、「男性 30~49 歳」が 31.0%で最も多く、男性が全体の 67.6%を占めている。

◆男性の出現率は 9.8%で、女性の約 2.9 倍



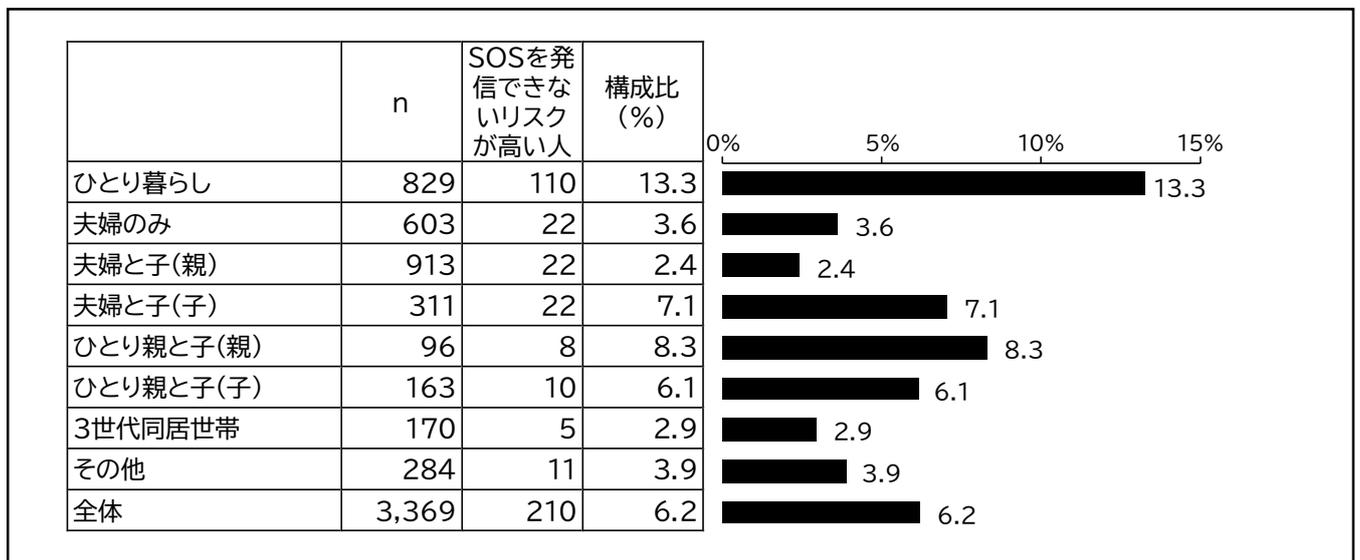
「SOSを発信できないリスクが高い人」の出現率を性別・年齢別にみると、男性は 9.7~10.0% (男性全体では 9.8%)、女性は 2.9~3.6% (女性全体では 3.4%) となっており、男性が女性の約 2.9 倍となっている。男女ともに年齢による差はほとんどなく、「SOSを発信できないリスク」は年齢に関わらず男性の方が高い。なお、「性別その他」の出現率は 20.0%と非常に高いが、回答数が少ないため統計的な判断はできない。

◆「民間賃貸アパート」に居住する人の出現率は12.2%



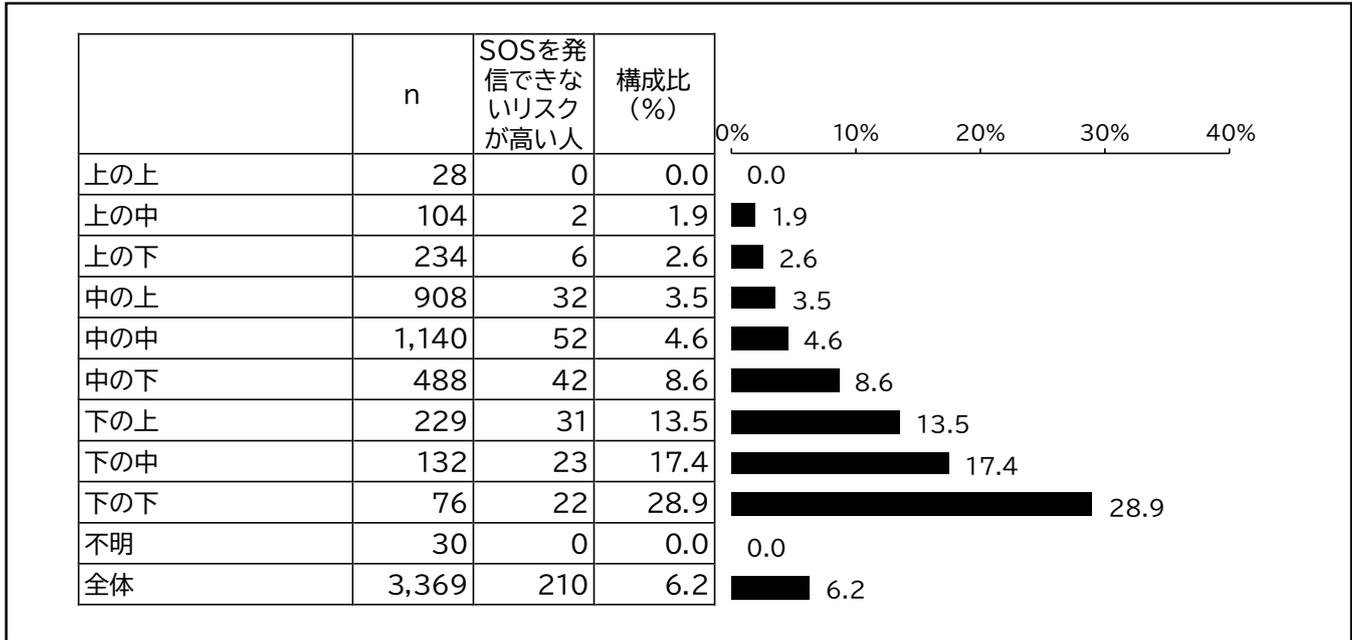
「リスクが高い人」の出現率を住まいの形態別にみると、最も高いのは「民間賃貸アパート」で、12.2%が「リスクが高い人」となっている。これはおそらく、次項でみる「ひとり暮らし」の人は「民間賃貸アパート」に居住する割合が高いことによる。次いで「賃貸住宅(一戸建て)」(7.2%)、「民間賃貸マンション」(6.9%)と続く。賃貸住宅に居住する人の出現率(9.1%)を持家の出現率(3.9%)と比較すると約 2.3 倍となっている。

◆出現率が高い家族類型は、「ひとり暮らし」「ひとり親と子(自分が親)」「夫婦と子(自分が子)」



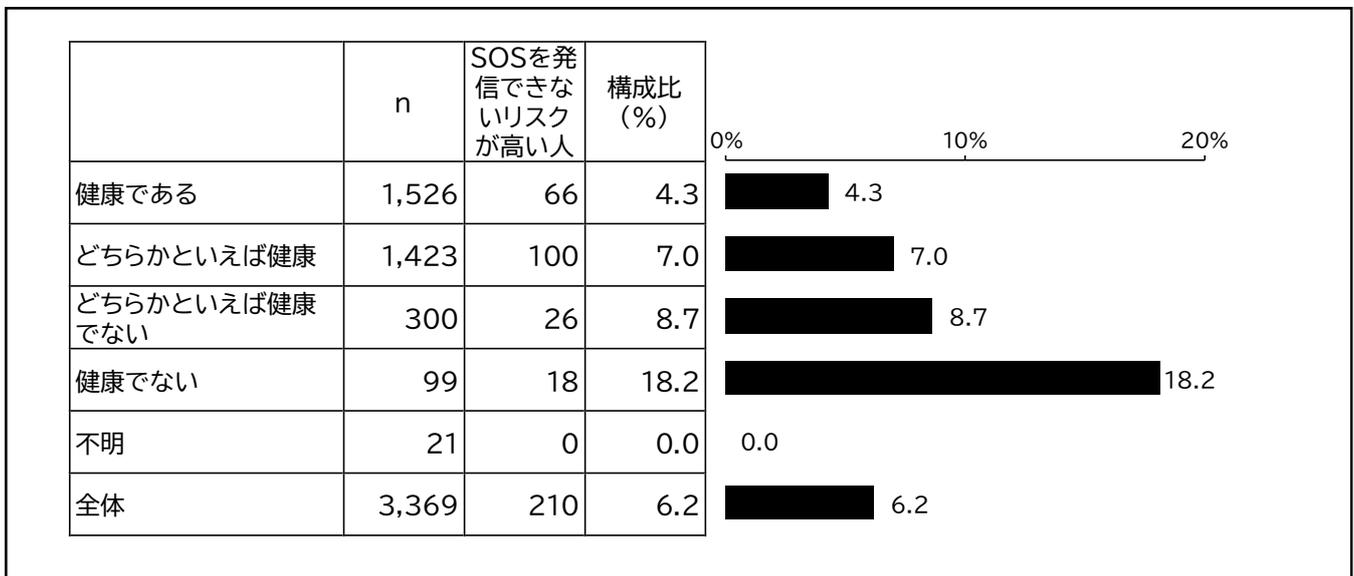
家族類型別に「リスクが高い人」の出現率をみると、最も高いのは「ひとり暮らし」で13.3%と突出している。次いで「ひとり親と子(親)」(自分が親)の8.3%であり、これを配偶者がいる場合と比較すると、「夫婦と子(親)」(自分が親)の出現率(2.4%)の約3.5倍にもなっている。3番目に出現率が高いのは「夫婦と子(子)」(自分が子)の7.1%である。これら3つの家族類型は全体の出現率である6.2%を上回っており、「リスクが高い人」が相対的に多い家族類型であるといえる。

◆暮らし向きが厳しいほど出現率は高い



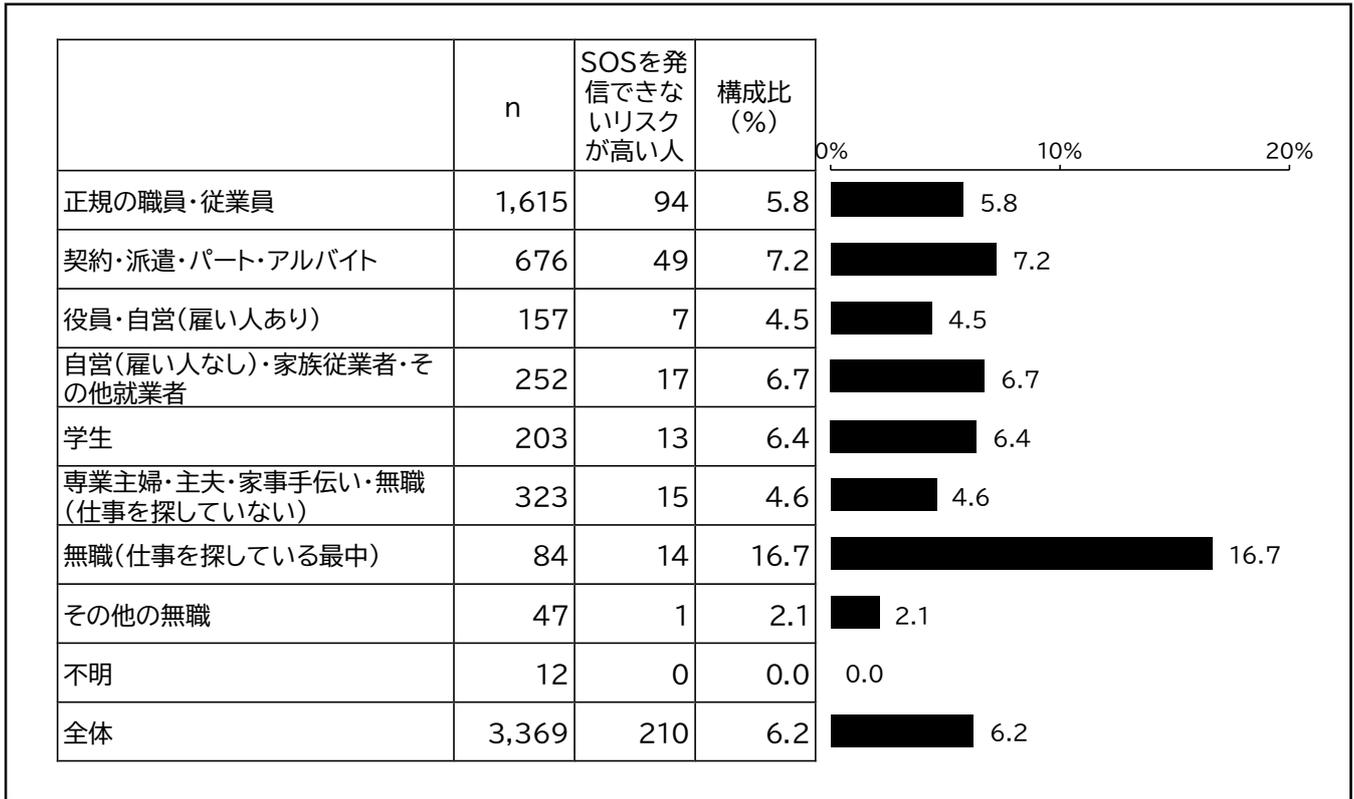
生活水準別に「リスクが高い人」の出現率をみると「上の上」では0人、「上の中」以下、暮らし向きが厳しくなるにつれ指数関数的に出現率は上昇し、「下の下」では28.9%となっている。SOSを発信できないリスクが急激に高まるのは「中の下」以降であり、暮らし向きが厳しくなるほど、SOSを発信できていない状況が読み取れる。

◆健康状態が悪いほど出現率は高く、「健康でない」人の出現率は18.2%



健康状態別に出現率をみると、「健康でない」と回答した人の18.2%は「リスクが高い人」となっており、「健康である」(4.3%)の約4.2倍にもなっている。

◆現在求職中の人の出現率は16.7%



就業状態別にみると、「無職(仕事を探している最中)」の出現率が16.7%と突出して高い。次いで「契約・派遣・パート・アルバイト」(7.2%)、「自営(雇い人なし)・家族従業者・その他就業者」(6.7%)が続き、経済的に不安定なほど、「リスクが高い人」が多い。また、「学生」(6.4%)も比較的高い出現率であるが、新型コロナウイルス感染症拡大により授業がオンラインで行われたり、部活動やサークル活動などが制限されるなど、通常とは異なる学生生活がこの調査結果にどのように影響しているのかについては、より深い分析が必要である。

2.「SOSを発信できないリスクが高い人」の生活の状況

◆ふだん利用している通信手段(問15、複数回答):「携帯電話での通話」「チャットまたはメッセージ」「インスタグラム」「固定電話」「ファックス」で差

	統計的な判定	SOSを発信できないリスクが高い人		それ以外		全体		0%	50%	100%
		n	%	n	%	n	%			
全体	—	210	100.0	3,159	100.0	3,369	100.0			
携帯電話での通話	**	170	81.0	2,824	89.4	2,994	88.9	81.0	89.4	
携帯電話でのメール		143	68.1	2,302	72.9	2,445	72.6	68.1	72.9	
チャットまたはメッセージ	*	115	54.8	1,959	62.0	2,074	61.6	54.8	62.0	
パソコンでのメール		100	47.6	1,628	51.5	1,728	51.3	47.6	51.5	
ツイッター		70	33.3	1,055	33.4	1,125	33.4	33.3	33.4	
SNSの閲覧・書き込み		52	24.8	923	29.2	975	28.9	24.8	29.2	
インスタグラム	**	51	24.3	1,079	34.2	1,130	33.5	24.3	34.2	
ウェブサイトの閲覧・書き込み		41	19.5	803	25.4	844	25.1	19.5	25.4	
固定電話	**	39	18.6	963	30.5	1,002	29.7	18.6	30.5	
オンラインゲーム		29	13.8	498	15.8	527	15.6	13.8	15.8	
ファックス	*	14	6.7	400	12.7	414	12.3	6.7	12.7	

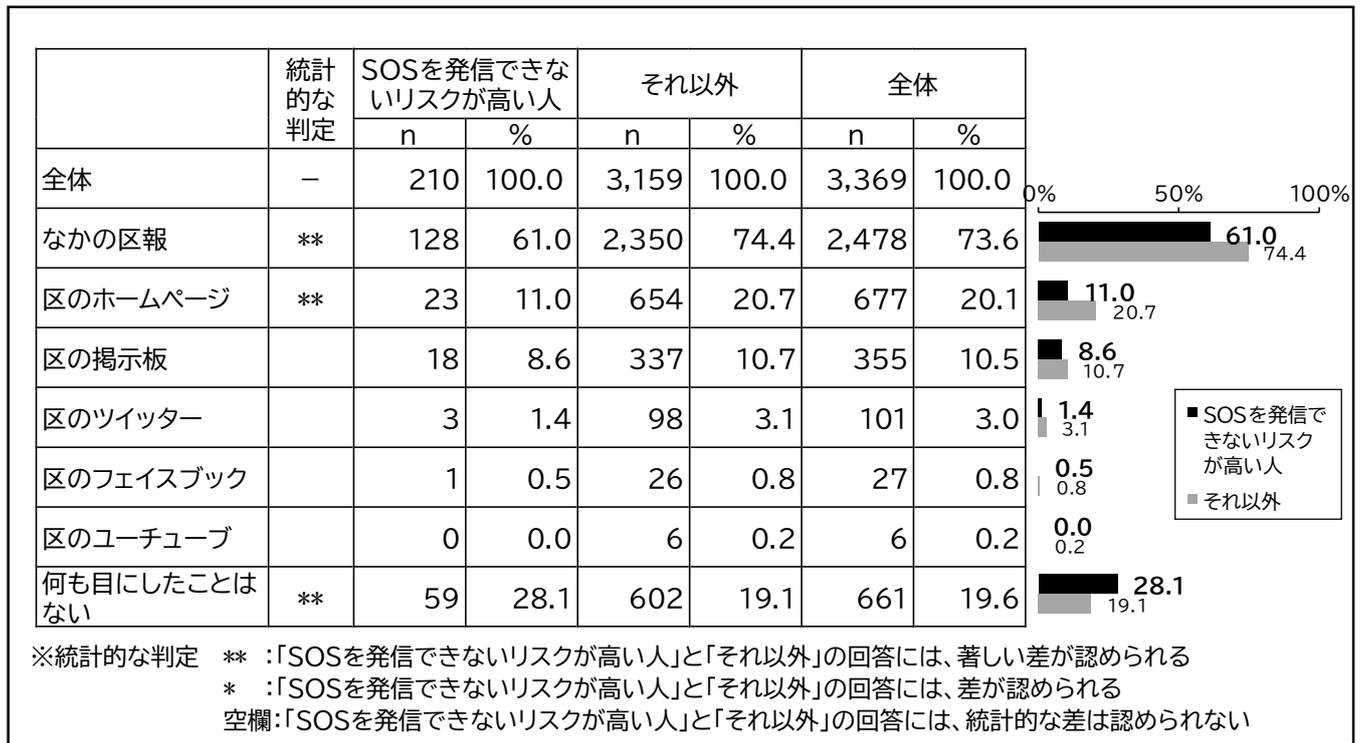
※統計的な判定 ** :「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、著しい差が認められる
 * :「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、差が認められる
 空欄:「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、統計的な差は認められない

ふだん利用している通信手段を「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」に分けて比較してみると、「携帯電話での通話」「チャットまたはメッセージ」「インスタグラム」「固定電話」「ファックス」の5つの通信手段で「リスクが高い人」の方が利用率が低い。

「統計的な判定」について

「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の人とでは、回答傾向に統計的な差があるのかどうかを確認するために、カイニ乗検定という手法を用いて検証しました。具体的には、各項目の選択肢について、「リスクが高い人」と「それ以外」のそれぞれの回答数が、全体と全く同じ割合だったと仮定した場合の「期待値」と比べてどのくらい差があるのかを計算し、その差を用いて「カイニ乗値」と呼ばれる検定統計量を算出して、統計的な手法で判断するというものです。カイニ乗検定の結果、1%水準で有意(もし「リスクが高い人」と「それ以外」の回答傾向に差がないとしたら、このような結果になる確率は1%以下である、つまり、「このような差がみられるのは非常に珍しい(=統計的にみて回答には著しい差があるといってよい)」であれば、ここでは「著しい差が認められる」とし、「**」と表記しました。カイニ乗検定の結果、5%水準で有意だった場合は「差が認められる」として「*」と表記し、統計的に有意な差が認められなかった場合は空欄にしています。

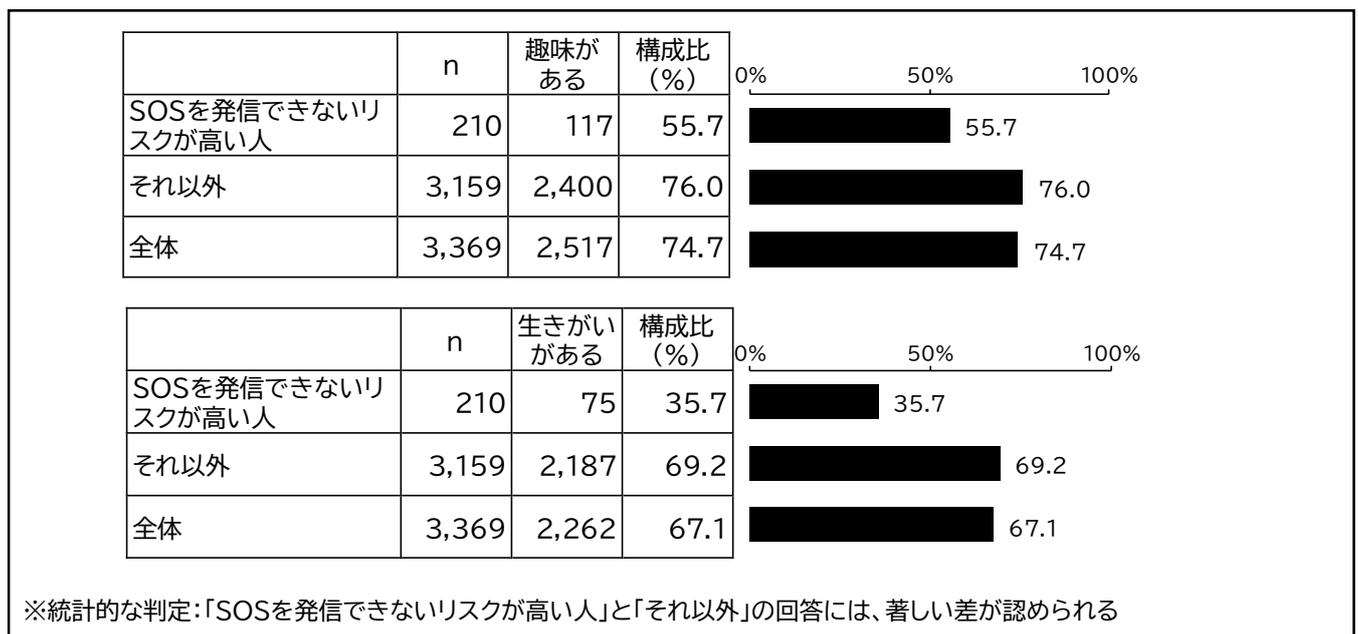
◆ふだん目にしている中野区の広報媒体(問16、複数回答):「SOSを発信できないリスクが高い人」の28.1%は中野区の広報媒体を何も目にしていない



「なかの区報」については、「それ以外」の回答者の74.4%がふだん目にしているが、「リスクが高い人」はそれよりも10ポイント以上低い61.0%である。また、「区のホームページ」についても、「それ以外」の20.7%がふだん見ているのに対し、「リスクが高い人」はそれよりも9.7ポイント低い11.0%にとどまっている。

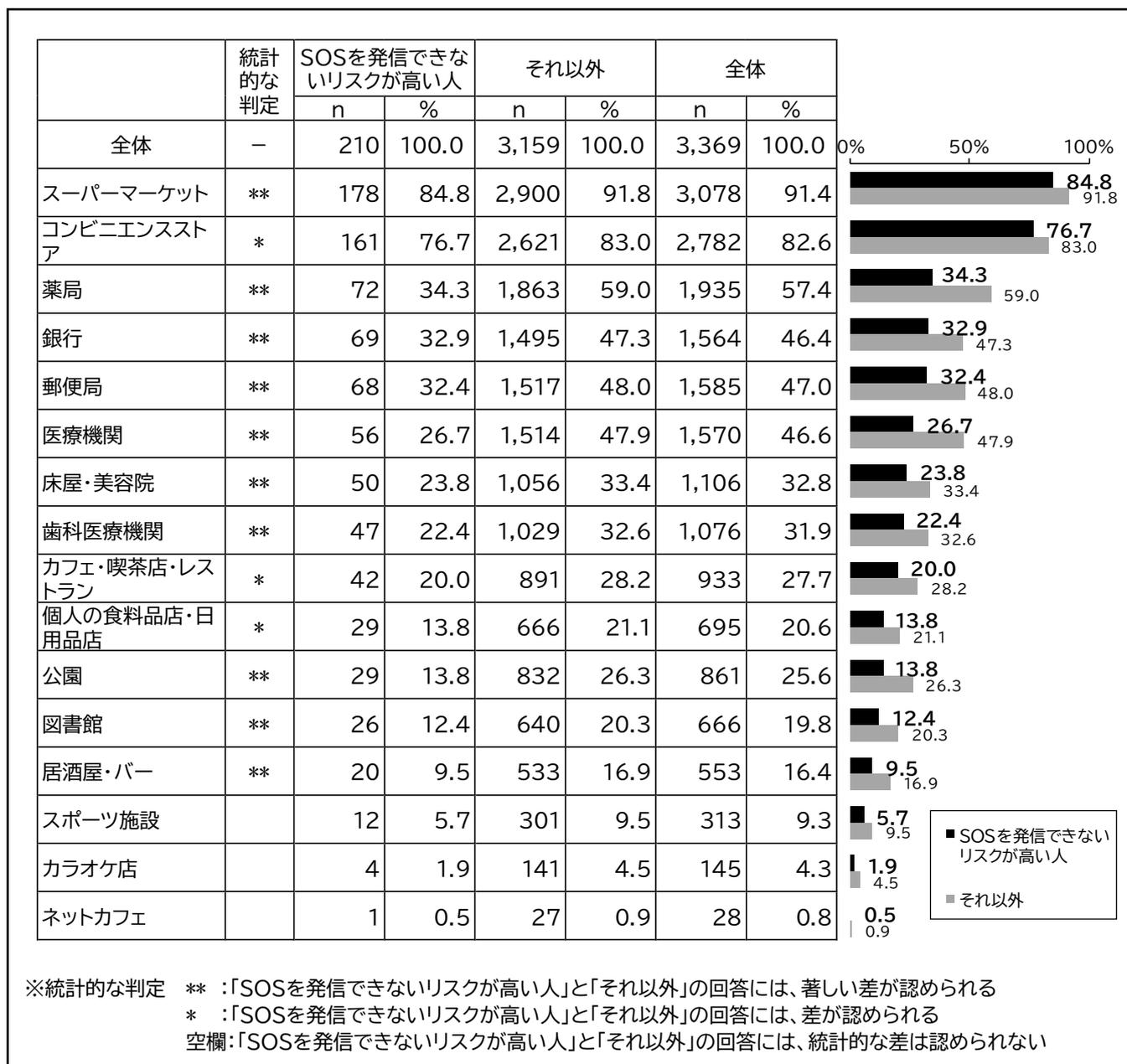
一方、「何も目にしたことはない」人の割合は、「リスクが高い人」では28.1%、「それ以外」の人では19.1%となっており、「リスクが高い人」に対して、区の情報がなかなか届きにくい状況にあることが読み取れる。

◆趣味(問30)と生きがい(問31):「リスクが高い人」は趣味・生きがいを持っている割合が相対的に低い



趣味、生きがいがある人の割合をそれぞれみると、「それ以外」の人では「趣味がある」人は76.0%、「生きがいがある」人は69.2%であるのに対し、「リスクが高い人」はそれぞれ55.7%、35.7%となっており、趣味では20.3ポイントの差、生きがいで33.5ポイントの差がある。

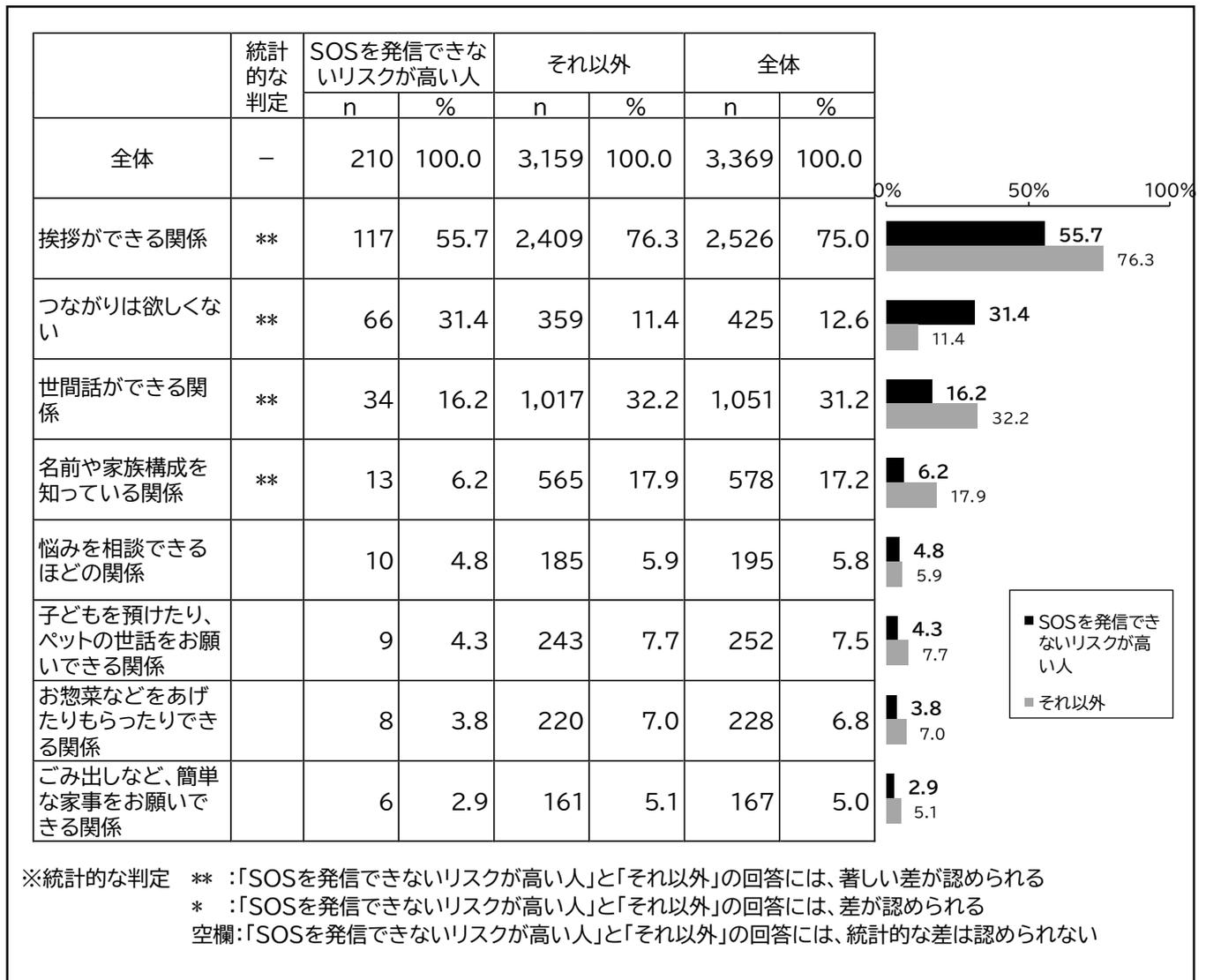
◆居住地域で利用することが多い場所(問40、複数回答):「リスクが高い人」はすべての場所で利用率が相対的に低く、特に「薬局」「医療機関」の利用率に大きな差がある



「リスクが高い人」も「それ以外」の人も利用率が最も高いのは「スーパーマーケット」、次いで「コンビニエンスストア」となっており、利用率の高い場所についての大きな傾向は変わらない。しかし、「リスクが高い人」の利用率は、すべての場所について「それ以外」の人よりも低く、地域との関わりが相対的に薄いことが読み取れる。

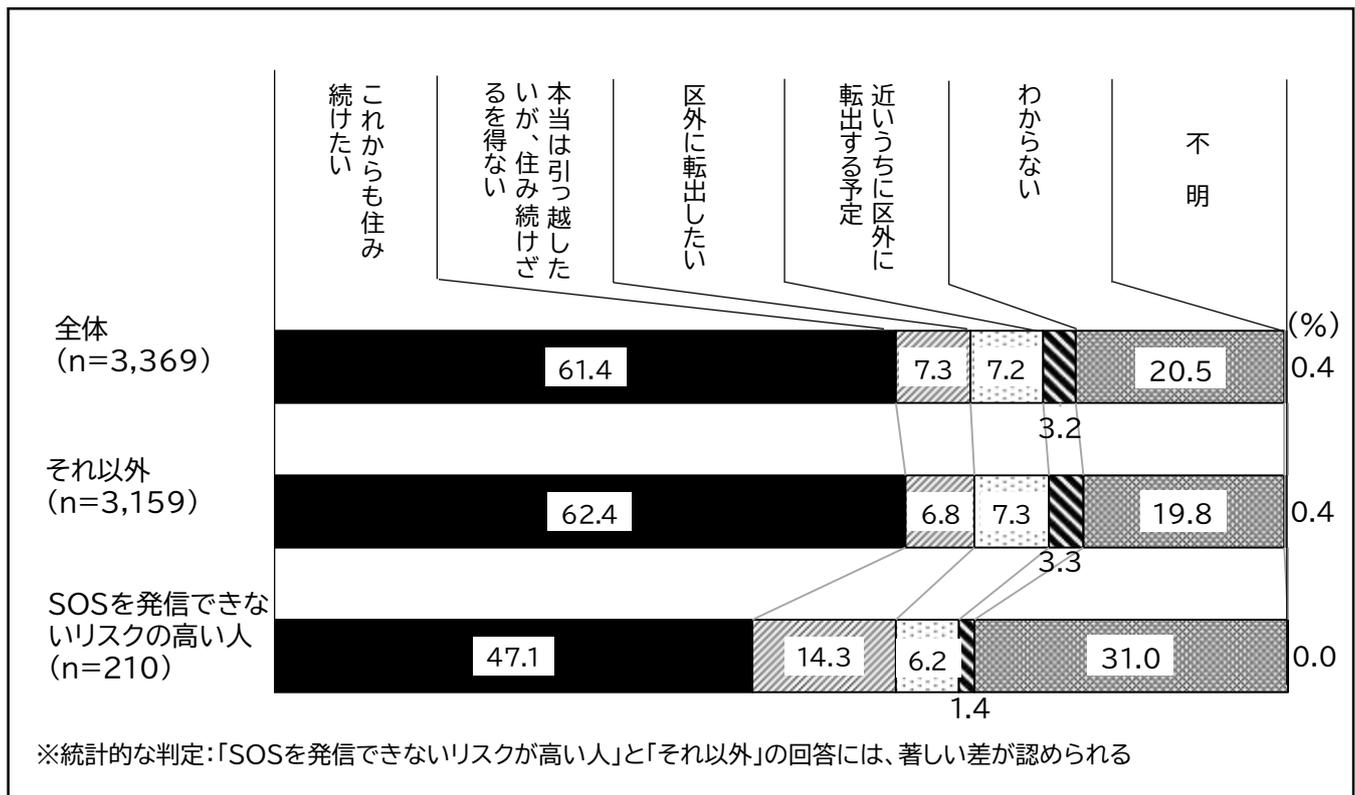
なお、「リスクが高い人」と「それ以外」の人の差が最も大きい場所は「薬局」(24.7ポイントの差)、次いで「医療機関」(21.2ポイントの差)となっており、「リスクが高い人」は医療系の専門機関とつながっていない割合が相対的に高いことが分かる。

◆居住地域で望む人とのつながりの形(問 42、複数回答):「リスクが高い人」の半数強は「挨拶ができる関係」を望んでいるが、3割強は「つながりは欲しくない」



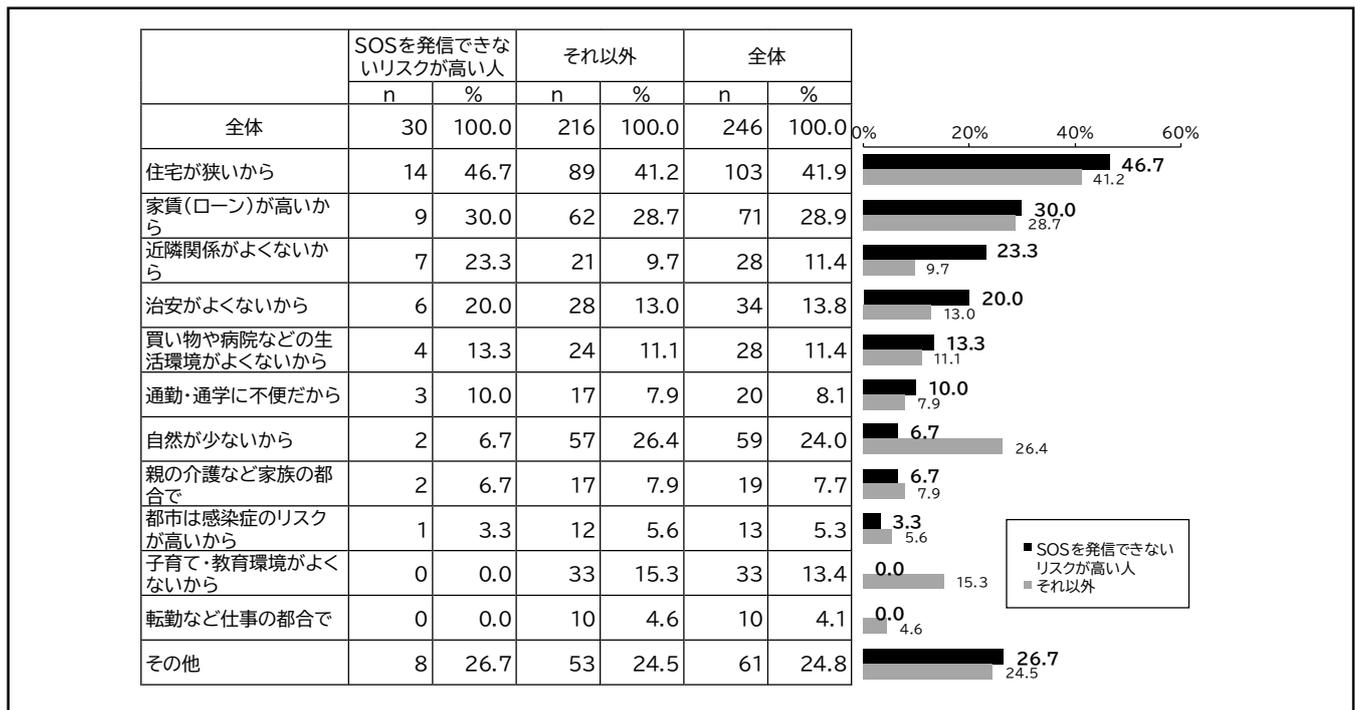
居住地域で「挨拶ができる関係」を望んでいるのは、「それ以外」の人では 76.3%であるのに対し、「リスクが高い人」では 55.7%にとどまっている。一方で、「つながりは欲しくない」と回答した人は、「それ以外」の人では 11.4%であるのに対し、「リスクが高い人」では 31.4%にもものぼる。「世間話ができる関係」についても、「それ以外」の人では 32.2%であるのに対し、「リスクが高い人」ではその約半分の 16.2%となっており、居住地域での人とのつながりを求めている割合が相対的に高い。

◆居住継続意向(問43):「リスクが高い人」のうち「中野区に住み続けたい」のは47.1%



「リスクが高い人」の居住継続意向(47.1%)は、「それ以外」の人(62.4%)と比較すると15.3ポイントも低く、逆に「本当は引っ越したいが、住み続けざるを得ない」と考えている人の割合が14.3%となっており、「それ以外」の人(6.8%)の2倍以上となっている。

「リスクが高い人」のうち「本当は引っ越したいが、住み続けざるを得ない」と回答した30人の「中野区から転出したい理由」をみると、最も多いのは「住宅が狭いから」(14人、46.7%)、以下、「家賃(ローン)が高いから」(9人、30.0%)、「近隣関係がよくないから」(7人、23.3%)と続いている。



3.「SOSを発信できないリスクが高い人」の悩み、誰にも相談しない理由

◆今、悩んでいること(問28):第1位「経済的な問題」、第2位「仕事そのものの悩み」、第3位「人生の目的や自分の存在価値」

	統計的な判定	SOSを発信できないリスクが高い人		それ以外		全体	
		n	%	n	%	n	%
全体	—	210	100.0	3,159	100.0	3,369	100.0
経済的な問題	**	92	43.8	898	28.4	990	29.4
仕事そのものの悩み	*	77	36.7	901	28.5	978	29.0
人生の目的や自分の存在価値	**	65	31.0	483	15.3	548	16.3
自分や家族の健康		51	24.3	724	22.9	775	23.0
自分の容姿・外見	**	41	19.5	304	9.6	345	10.2
住まいの問題		39	18.6	459	14.5	498	14.8
家族関係	**	37	17.6	294	9.3	331	9.8
自分の性格	**	35	16.7	301	9.5	336	10.0
家族以外の人間関係	**	31	14.8	203	6.4	234	6.9
仕事と家庭の両立		18	8.6	329	10.4	347	10.3
学業・進学の問題		15	7.1	224	7.1	239	7.1
近隣との問題	**	12	5.7	66	2.1	78	2.3
育児・介護	**	9	4.3	364	11.5	373	11.1
その他の悩み	*	18	8.6	158	5.0	176	5.2
特に悩みはない		42	20.0	820	26.0	862	25.6

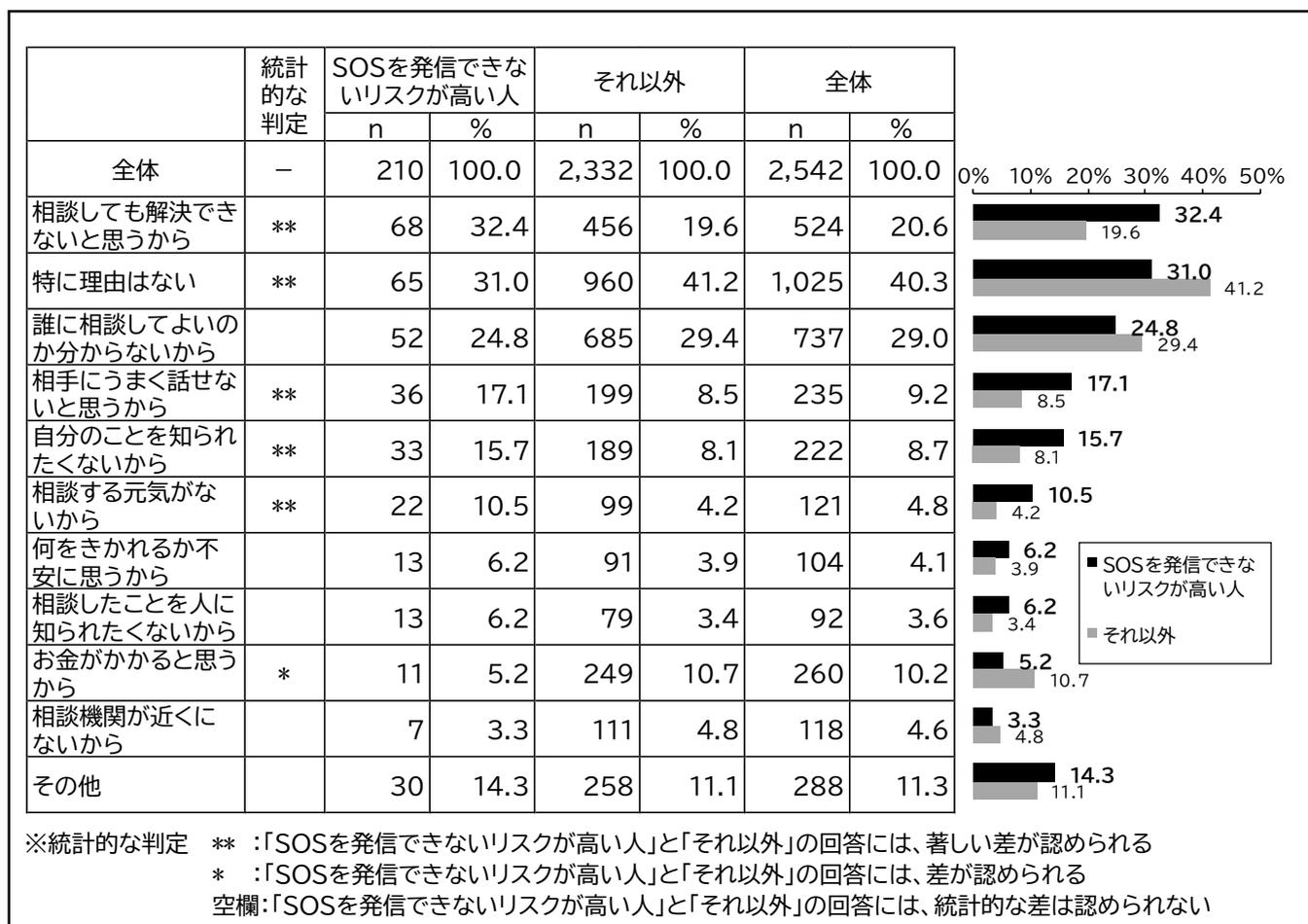
※統計的な判定 ** :「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、著しい差が認められる
 * :「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、差が認められる
 空欄:「SOSを発信できないリスクが高い人」と「それ以外」の回答には、統計的な差は認められない

「リスクが高い人」が今、悩んでいることをみると、第1位の「経済的な問題」は43.8%、第2位の「仕事そのものの悩み」は36.7%である。この2つについては「それ以外」の人も回答率が高い。

これに対し、第3位の「人生の目的や自分の存在価値」に関する悩みについては、「それ以外」の人の回答率は15.3%であるのに対し、「リスクが高い人」は31.0%とおおよそ2倍、15.7ポイントの差であり、「経済的な問題」(15.4ポイントの差)よりも差が大きかった。

この他、「それ以外」の回答率との差が大きいのは、「自分の容姿・外見」「家族関係」「自分の性格」「家族以外の人間関係」「近隣との問題」となっており、自分自身に関することや人間関係に関する悩みの回答率が高いことがわかる。

◆誰にも相談しない理由(問27-1):第1位は「相談しても解決できないと思うから」



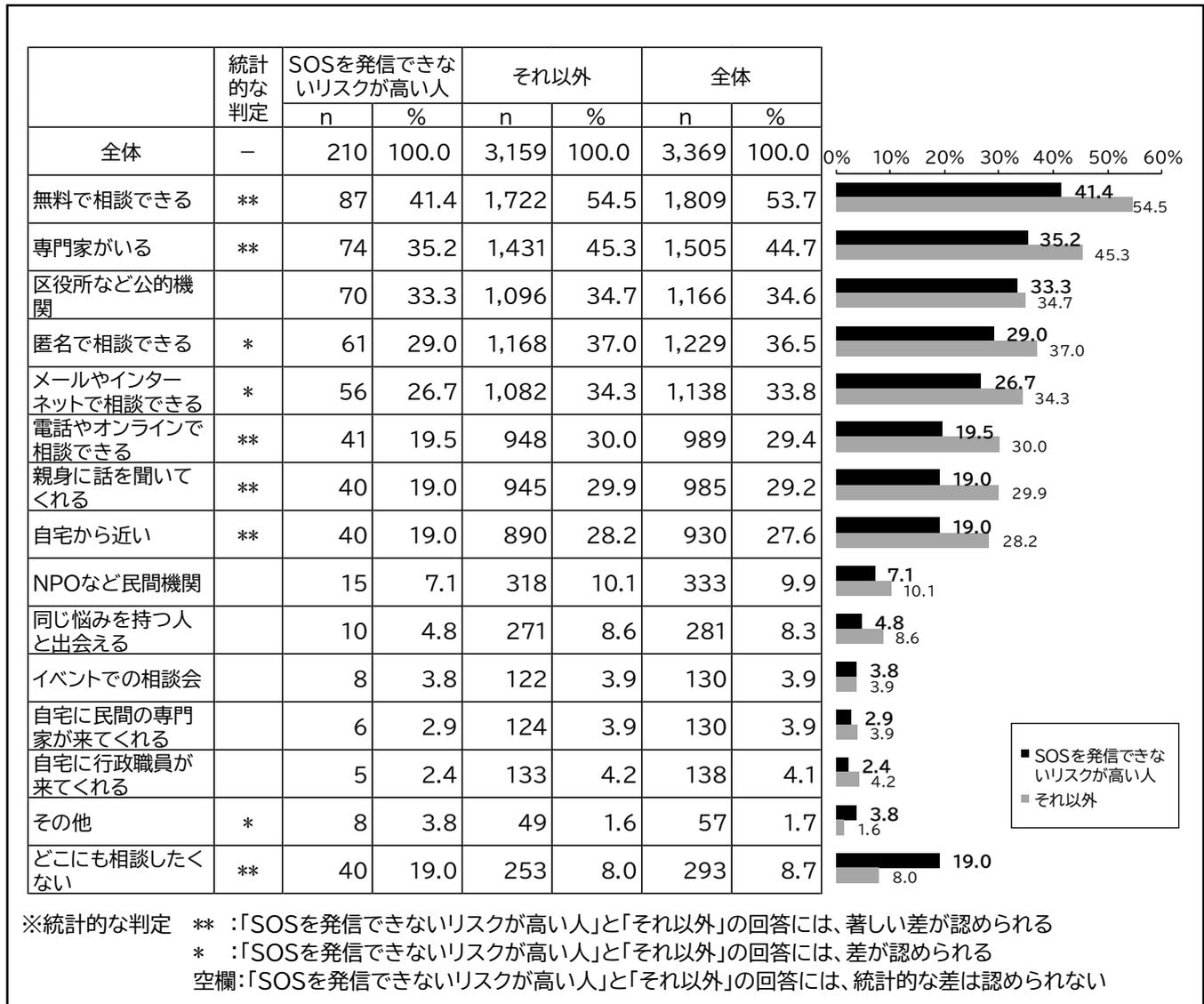
「リスクが高い人」が誰にも相談しない理由の第1位は「相談しても解決できないと思うから」(32.4%)、第2位は「特に理由はない」(31.0%)、第3位は「誰に相談してよいのか分からないから」(24.8%)である。これに対し、「それ以外」の人の回答傾向は大きく異なっており、第1位「特に理由はない」(41.2%)、第2位「誰に相談してよいのか分からないから」(29.4%)、第3位「相談しても解決できないと思うから」(19.6%)である。

第4位以下の理由をみても、「相手にうまく話せないと思うから」「自分のことを知られたくないから」「相談する元気がないから」「何をきかれるか不安に思うから」「相談したことを人に知られたくないから」の各項目で、「リスクの高い人」の回答率は「それ以外」の人の回答率の2倍前後となっている。

逆に、「お金がかかると思うから」に関しては、「リスクが高い人」の回答率は5.2%で、「それ以外」の人(10.7%)の半分以下となっており、経済的な問題を抱えている人が多いとはいえ、料金がかかると思うことが相談しないことの主要原因ではないことが明らかとなった。

4.「SOSを発信できないリスクが高い人」が相談しやすい場所

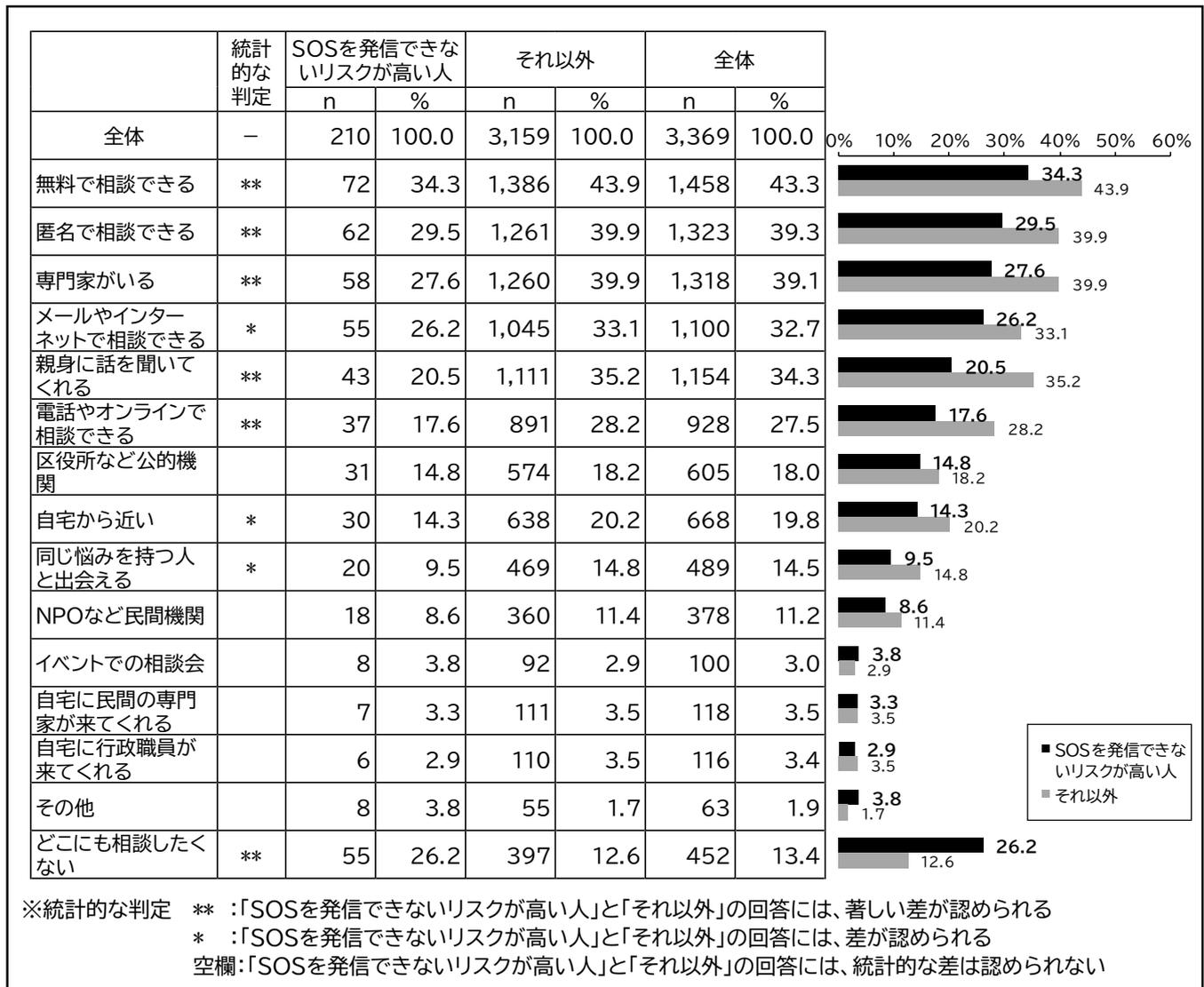
◆経済的な問題の相談場所(問51、複数回答):上位5要素は「無料」「専門家」「公的機関」「匿名」「メールやインターネット」



経済的な問題について、どんな場所であれば相談しやすいかについて尋ねたところ、「リスクが高い人」と「それ以外」の人ともに、第1位は「無料で相談できる」、第2位は「専門家がいる」である。第3位が異なっており、「リスクが高い人」は「区役所など公的機関」であるが、「それ以外」の人は「匿名で相談できる」ことである。

最も大きな特徴は、ほぼ全ての項目で「リスクが高い人」の回答率は「それ以外」の人を下回っているが、「どこにも相談したくない」については「リスクが高い人」の回答率は19.0%であるのに対し、「それ以外」の人では半分以下の8.0%であることである。

◆家庭や人間関係の問題の相談場所(問51、複数回答):上位5要素は「無料」「匿名」「専門家」「メールやインターネット」「親身に話を聞いてくれる」

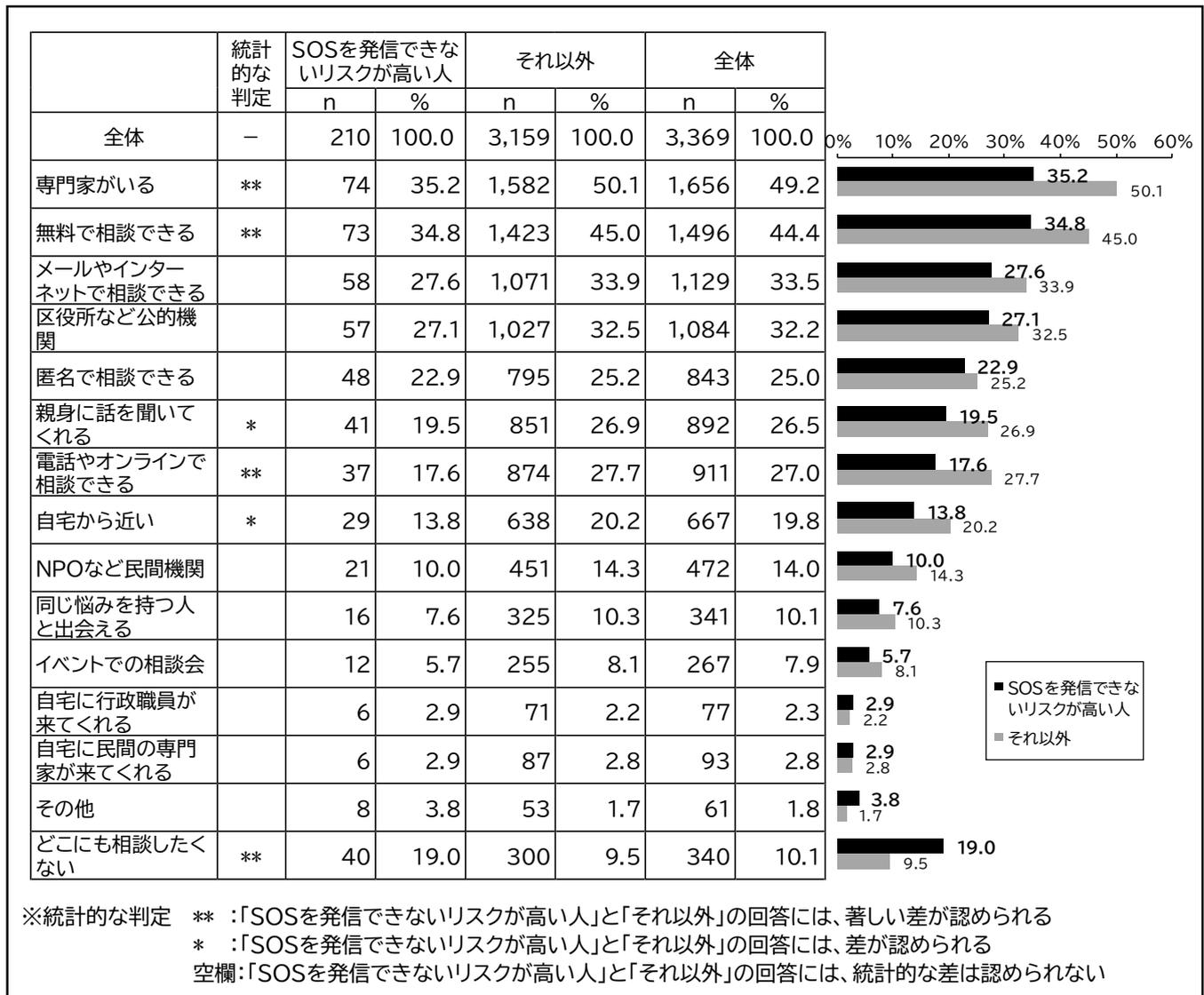


家庭や人間関係の問題の相談場所については、「リスクが高い人」も「それ以外」の人も第1位は「無料で相談できる」であることは経済的な問題の相談場所と変わりはないが、その回答率はどちらも経済的な問題の回答率を下回っている。第2位にはどちらも「匿名で相談できる」となっているが、「それ以外」の人は同じ割合で「専門家がいる」ことを挙げているのに対し、「リスクが高い人」の回答率はやや低い。

また、経済的な問題では第3位に挙げられていた「区役所など公的機関」が、家庭や人間関係の問題では第7位(14.8%)と大きく順位を下げている。その代わりに「メールやインターネットで相談できる」「親身に話を聞いてくれる」が上位に来ていることが特徴である。

一方、「どこにも相談したくない」割合をみると、「リスクが高い人」では26.2%にのぼり、経済的な問題等よりも相談したくないと考える人が多い。

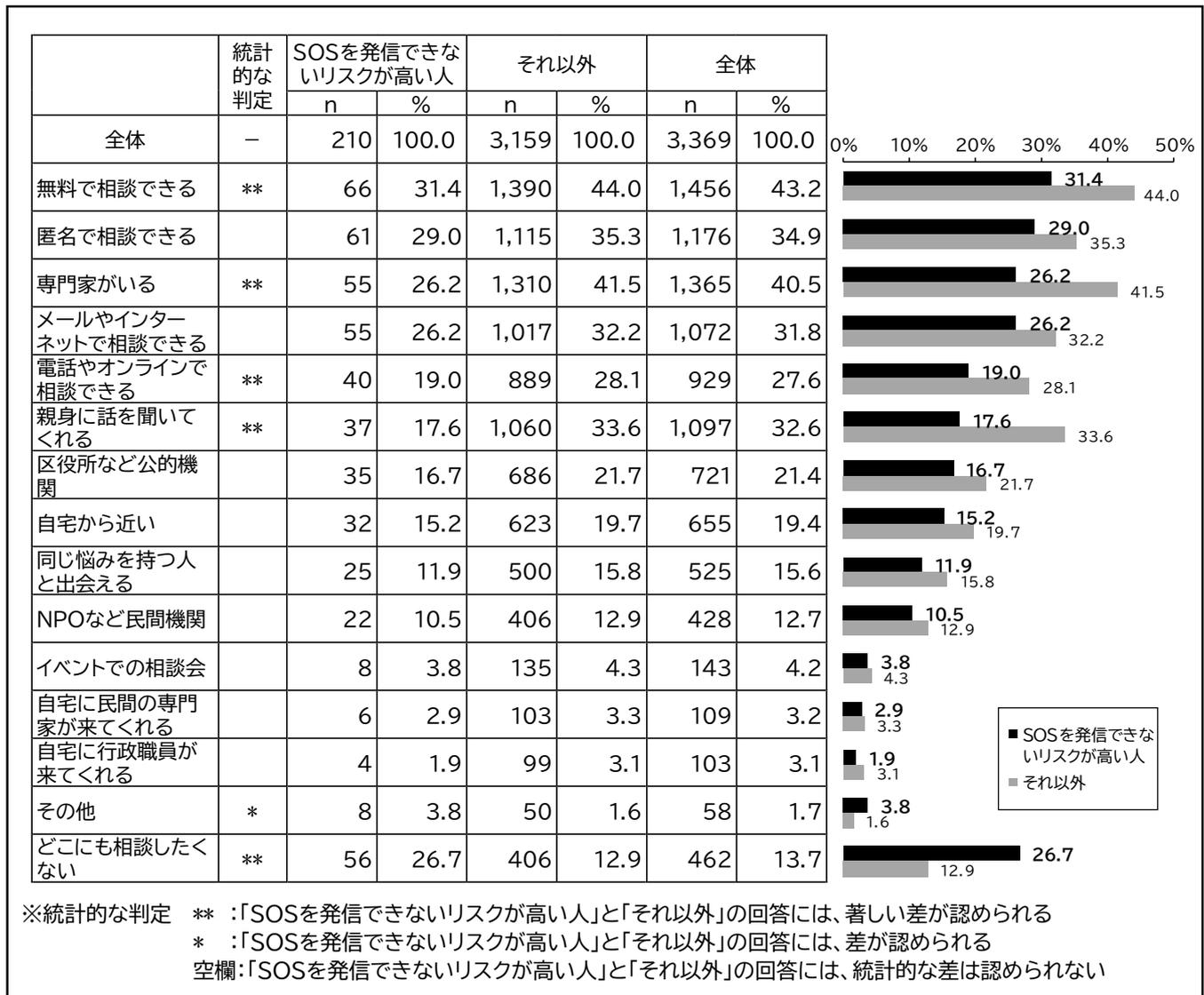
◆雇用や職場、キャリアなど仕事に関する問題の相談場所(問51、複数回答):上位5要素は「専門家」「無料」「メールやインターネット」「公的機関」「匿名」



雇用や職場、キャリアなど仕事に関する問題の相談場所については、「リスクが高い人」も「それ以外」の人も第1位は「専門家がいる」、第2位は「無料で相談できる」、第3位は「メールやインターネットで相談できる」となっており、大きな回答傾向は変わらない。

また、「どこにも相談したくない」と回答した人の割合は、「経済的な問題」とほぼ同じ割合であり、「リスクが高い人」では19.0%、「それ以外」の人は9.5%となっている。

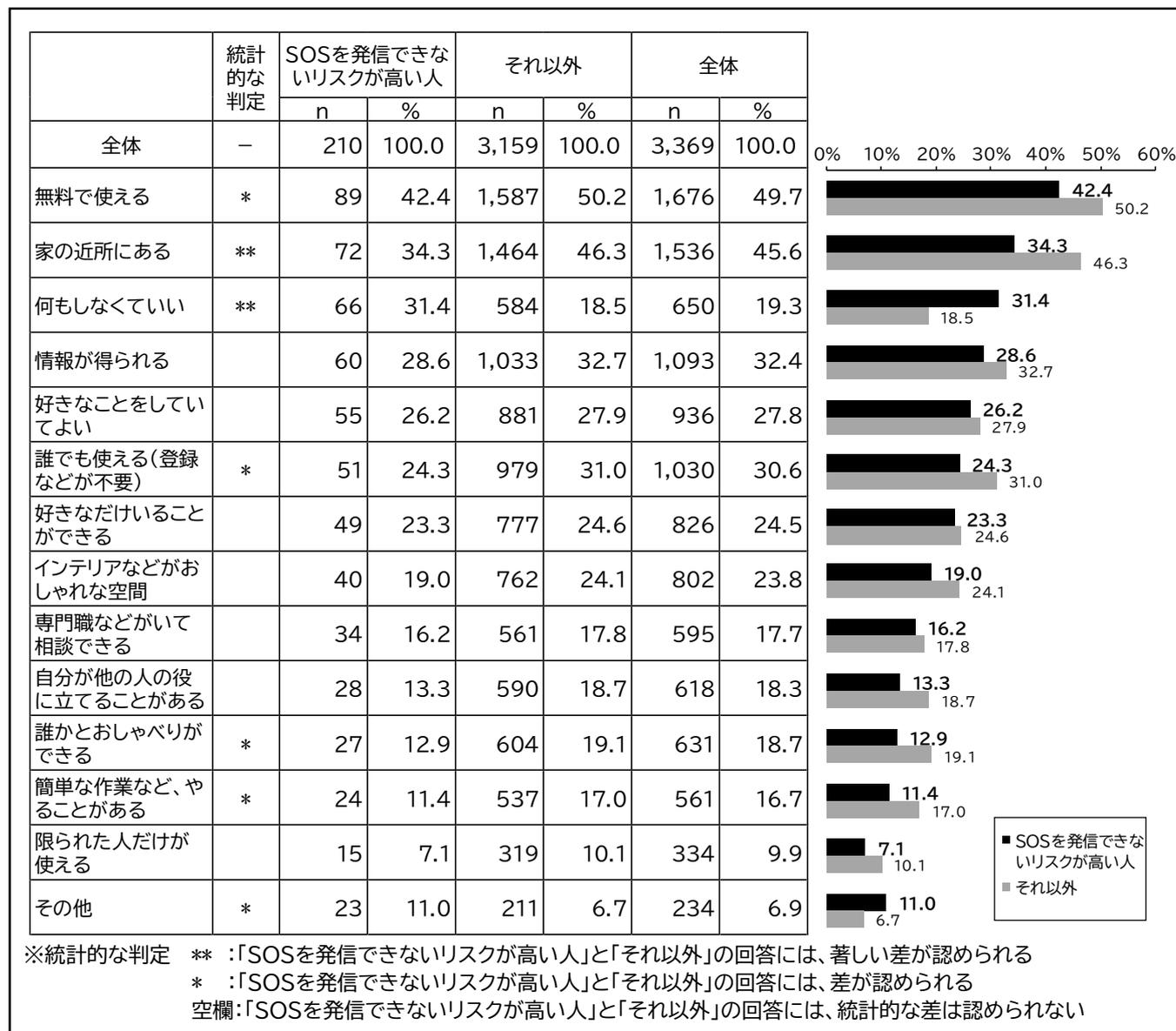
◆その他さまざまな人生の問題の相談場所(問51、複数回答):上位5要素は「無料」「匿名」「専門家」「メールやインターネット」「電話やオンライン」



その他、特に特定のテーマを設けずに「さまざまな人生の問題」の相談場所として尋ねたところ、「リスクが高い人」と「それ以外」の人とでは、回答傾向に差異がみられた。まず、「リスクが高い人」の第1位は「無料で相談できる」(31.4%)、第2位は「匿名で相談できる」(29.0%)、第3位は「専門家がいる」「メールやインターネットで相談できる」(ともに26.2%)となっている。これに対し、「それ以外」の人では、「無料で相談できる」(44.0%)が第1位であることは「リスクが高い人」と同様であるものの、第2位には「専門家がいる」(41.5%)、第3位には「匿名で相談できる」(35.3%)が入っている。この他「親身に話を聞いてくれる」という選択肢に対する「リスクが高い人」の回答率は、「それ以外」の人の約半分の17.6%にとどまっており、「リスクが高い人」の多くは、「相談」と「話を聞いてもらう」ことは別物として考えていることが窺える。

5.「SOSを発信できないリスクが高い人」があったらよいと思う「居場所」

◆区内にあったらよいと思う「居場所」(問 47、複数回答):上位5要素は「無料で使える」「家の近所にある」「何もなくていい」「情報が得られる」「好きなことをしてよい」



どんな「居場所」があるとよいと思うかについては、「リスクが高い人」も「それ以外」の人も、第1位「無料で使える」、第2位「家の近所にある」という順位は変わらない。しかし第3位は異なっており、「リスクが高い人」は「何もなくていい」が31.4%であるのに対し、「それ以外」の人の回答率は18.5%にとどまり、12.9ポイントもの差がある。

一方、第4位の「情報が得られる」、第5位の「好きなことをしてよい」については、「リスクが高い人」と「それ以外」の人の回答率に統計的な有意差はみられない。

このほか、「誰でも使える(登録などが不要)」「誰かとおしゃべりができる」「簡単な作業など、やることがある」の各項目で、「リスクが高い人」の回答率は「それ以外」の人の回答率と比較して約5~6ポイント程度低い。

以上から、「リスクが高い人」が求める「居場所」を回答率の高い項目を中心に記述すると、①無料で使えて、②家の近所にあり、③何もなくてよい、あるいは好きなことをしてよく、④好きなだけいることができ、⑤情報が得られる場所、ということになる。

どのような人がどのような「居場所」を求めているのかについては、より詳細な分析が必要である。